

「国家・社会の負託に応える有為の人材を育成する」ことが帝塚山学園の建学の理念です。頭だけでなく、身体で「日本」「日本人」を体得し、自然な世界観、宗教観を持ち、自分で考え行動できる人材をつくる教育を実現したいと思います。

学校法人帝塚山学園 理事長

有山 雄基 氏
かつもと



▶ 教師も医師も聖職であり、高い倫理性が必要

— 長年、医師という職業に従事されるとともに、全国最長の11期連続で奈良県医師会会長の重職を担ってこられました。これまでを振り返られてどのようなお気持ちでしょうか？

卒業後約10年間は、日本大学医学部の医局等で幅広い経験を積みました。当直で泊まりっぱなしということもありましたが、好きなことに没頭することができました。その後、親の跡を継いで開業医になりましたが、自分の郷里で親の跡を継げるというのは最大の幸せだと思っています。

医師会は、医道の高揚を図ることを第一の目的としています。「道」がつくと精神性、倫理性が加わります。そのことを会員にも、社会の人々にも理解してもらうことに腐心しました。32年間におよぶ医師会活動のうち、前半は保険診療にお

ける諸々の制約の排除に、後半は昭和36年に完成し世界に冠たるわが国の国民皆保険制度の堅持のための活動に取り組みました。また、医師達が働きやすいようにすることも医師会の目的の一つです。

自分の母校である帝塚山学園で今の仕事をする事になりましたが、責任の重さをひしひしと感じるとともに、母校の為に尽くせることに心から感謝しています。

この学園においても、教職員が働きやすい教育環境を整備していくことが、私の仕事だと思っています。

— 医師としてのご経験が、現在の学園の運営に役立っていますか？

医師の任務は、例えば患者さんに「ああ、そうですか。頭が痛いのですか」で済ませるものではありません。患者さんが抱えている問題を即座に

理解して直ちに何らかの対応をすることであり、その結果について責を負わねばなりません。

医療は情報不足の中で仕事を行います。対応しながらデータ分析をやって、更に次の対応をするというやり方です。このやり方そのものは医療でも学園運営でも一緒ではないかと思えます。

学園の運営でも、この厳しい時代にのんびり構えていることはできません。何か問題があれば直ちに判断して誠実に対応し、結果には責任を負う覚悟です。

— 医療と教育は、何か相通ずるものがあるのでしょうか？

医療と教育の共通点は、「医療も教育も共に非営利事業であることと、人を相手にしているということ」です。また、医師と教師には「師」という文字がついていますが、この「師」は任務の遂行に際して自由裁量の幅が広く、結果を自ら作り出す面を備えているということです。

嘘が許されるものではありませんが、非常に厳しい状況にある患者さんにも、回復の希望を持つような言葉をかけないと、その患者さんは救われません。伸び悩んでいる生徒に接する教師も同じです。それだけに教師も医師も高い倫理性が求められます。いずれも聖職でなければいけません。普段着のような気持ちや服装で診察したり教壇に立ったりしてはいけません。

— 患者さんが自ら生きよう、また子供さんが自分から勉強しようと思うように導いてあげるには、メンタルな部分も相当あると思えますが。

医師という職に就いている人は、相手からある程度尊敬されていないと、成果があがりにくいものです。教師も一緒ですから、学生や生徒から尊敬されているかどうか考えてもらわないといけません。尊敬されていない教師では、教育の実が上りません。

やはり人間的にも偉いと思っている先生に教えてもらってこそ、良く勉強ができます。患者さんも、尊敬する医者 of 言うことはよく理解して、「あまり食べ過ぎてはいけませんよ」と言われた

ら従うでしょう。教師と学生・生徒にもこのような関係が必要なのです。

人が相手同士で向き合っているのが「仁」ですから、教育も仁でなければいけません。このことについての理解が間違っているのではないかとと思われることがたまにあります。教師についても医師についても。

▶ 創立 70 周年を機に建学理念を再確認

— 2 歳児教育から大学院までを擁する総合学園としての強みは何でしょうか？

保護者をはじめとするステークホルダーの方々にご理解いただきながら、本学園の「建学の理念」「教育方針」に基づいた、一貫した教育を行えることが強みです。



学園前キャンパス

植物でも基肥と、草木が成長するときの肥と、実を沢山実らせるときの肥やしは、少し違います。植物に与える肥やしと一緒に、人間の成長過程では、それぞれの時期に応じた肥やしが必要です。それを帝塚山学園として一定の共通した理念で、その時その時に必要な肥やしを施すというか、教育するというのが、一貫教育の強みではないかと考えています。

もう一つ言うと、「国家・社会の負託に応える有為の人材を育成する」ことが当学園の建学の理念ですが、創立当時の表現を借りれば「國家有為ノ國民ヲ鍊成」なんです。育成ではなく、鍊る、鍊成です。これがこの学校の本来の目的です。成長のプロセスに応じて、2 歳児から大学院まで、こういう理念を一貫して貫くことができると思います。

— 卒業生のお子さんが入学されることが多いとお聞きしていますが。

その点は、本学園の誇りとすべきことだと思います。

ます。子供を自分の母校へ入れようというのは、理想的な教育が行われているから、親が子供を入れよう、祖父母が孫を入れようと思う訳です。

—— 帝塚山学園で特に重視されていることはありますか？ イスタンブール（トルコ）にて行われたロボカップジュニア世界大会では、2部門に出場して第2位と4位になられたそうですが。

生徒も先生も一生懸命やっていますから。中高の場合ですと、とくに重視していることは、「学力偏重ではない」ということです。ロボカップの大会も部活の一環として参加しました。学力をつけると同時に体育部・文化部などの部活動にも力を入れていく「文武両道」を帝塚山学園ではとくに重視しています。

—— 2010年度卒業生の進学成績が飛躍的に向上したそうですが、その要因は何でしょうか？

それは長い間に亘って、生徒自身の頑張り、保護者の方々のご理解、教師の努力が一つになって為し得たことだと思います。これまでの努力が報われたと言えますが、手を抜くとすぐ落ちますから、今後もそれぞれの立場で絶えず努力していく必要があります。

結果を出すのは生徒自身であり、結果を出せるような環境を整えるのが我々の務めです。そのため少人数授業、コース制の充実など、生徒一人ひとりの力を伸ばす教育を行うとともに、人間教育を重視し、行事や部活動へも積極的に参加させています。



中学・高校男子英数クラス授業風景、理科部ロボット班

勉強だけして超一流大学へ入ってもダメです。社会的に通用する基盤を中高の間で作っておいてやらないと、大学を卒業して世の中に出てから通用しなくなります。先のことまで考えて、当学園では一生懸命取り組んでいます。

—— 中学・高校以上では、県外にお住まいの生徒さんが多いそうですが、県外からもわざわざ行きたいと思ってもらえるのは、すごいことですね。

そうでないとだめでしょう。やはり、いかに遠い所から大勢の人が来てくれるかというのは、その学校の値打ちでしょうね。遠くから来てくれるほど、本当にいい学校なのだと思います。医療も一緒に、患者さんが遠い所から来てくれる病院は、それなりに値打ちがあるのではないのでしょうか。

—— 創立70周年を迎えられましたが、今後の学園運営の方向性をどのようにお考えですか？

創立70周年を機に、創立当時の建学の理念に立ち返り、これまで学園創立者の熱い思いを本当に実現できたかを真摯に評価し直しました。

それからもう一点は、原点である建学の理念

「国家・社会の負託に応える有為の人材の育成」に戻るといことです。現在の日本は、いろいろな意味で諸外国からの圧力を強く受けており、本学園が創立さ



れた戦争直前の社会情勢とよく似ています。

今、国家・社会が何を求めているのかについて学園全体のテーマとして議論しました。その結果、今一番求められていることは、国家・社会に有為の、きちんと働くことができる人材、すなわち、日本、日本人ということを常に意識し、自然な世界観、宗教観という「心の芯」を持った若者の育成であるという考えに至りました。

本当に国際社会で働ける人を育てるためには、立派な日本人でないといけません。国際人イコール立派な国民なのです。アメリカ人でも国際人と言われている人は、立派なアメリカ人であり、自

分の国に誇りを持ち、その上で相手に敬意を表し、そして自分の主張はきちんとできます。

自分の国に誇りを持つ人でなければ、国際人にはなれませんので、そういう人をこれからつくっていかねばいけないと思います。

幸い、諸先輩が続けてこられた「教養教育」という「帝塚山教育」の実績があります。これらの実績を踏まえ日本の「精神」「道徳」「文化」「伝統」等をバックボーンとした総合学園であり続けたいと考えています。

— 確か「日本人としての矜持を保つ」ことを大事にされているとお聞きしているのですが。

そうですね、自分自身も大事にしていますし、やはり子供たちにもそういう人間になってもらいたいと思います。自分の国が駄目な国だとか、自国をけなすような事ばかり言うようなことではいけません。愛国心がないと駄目なのです。

愛国心がなければ、自分自身も愛せないのです。国を愛せなくて、奈良県という地域を大事に思えますか。この地域を大事に思えない人が、自分の家庭を大事に思えますか。国を愛するという心が今、日本の国では潰れていますから、それを立て直さないといけないと思います。



— 地域社会との交流や社会貢献活動などの取り組みについて教えていただけますか？

例えば、平成 22 年度に帝塚山大学では地域社会向けの公開講座を年間 59 回開催しました。また、地元の高専への出前講義、それから地元自治体と連携した子育て支援・不登校児童のサポー

ト、適応指導教室の運営サポート、アドベンチャー・カウンセリングの手法を応用した授業の支援などを行っています。

「地域社会に開かれた学校」として地域社会に貢献できるように活動しているのです。

▶ 志を持ち、国を背負って立つという気概を

— 奈良県における教育の現状やあるべき姿をどのようにお考えですか？

奈良県の教育レベルは、非常に高く、大学への進学実績は全国トップレベルです。今後、関係者がお互いに虚心坦懐に情報交換を行い、良いところを学び合って切磋琢磨していけば、奈良県全体として更に伸びて行くでしょう。

日本人が日本人でいられる有難さ、それはやはり奈良に原点があります。奈良は「日本誕生の地」であり、「日本の政治、社会、精神、芸術の原点」です。その奈良の地にあって、日本について学び、日本人としての自覚・矜持を取り戻させる教育を実現しなければならないと思います。

また、先日の本誌インタビューで北河原公敬^{げい}氏が「宗教的情操教育を学校においてもっとやっておくべきであった」とおっしゃっていましたが、私も全くその通りだと思います。

本学園は特定の宗教立ではありませんが、将来の展望として宗教的な情操教育をどのようにやっていくべきか、その方法について具体的に今考えているところです。

宗教心は、我々に自然にあるのです。無理やり消している宗教心を呼び戻せばいいのです。自然に感謝する気持ちだとか、「天網恢恢疎^そにして漏らさず」、つまり、悪いことをするとお天道様^{てんとうさま}が見ておられるからやめておこうという気持ちは、自然に日本人が持っているものであり、それを呼び戻さないといけません。それを教育の場で実践しなければいけないのです。

— 最近の子供、若者を見てどのように感じておられますか？

一言で言って、「志」を持っている若者が少ないと感じています。中には「志」を持った立派な人もいるのですが、特に目的意識が希薄になっており、将来への夢を持ち得ていない点も気懸かりです。私の若い頃は、周りの同級生も先輩・後輩も将来の夢を持ち、それについて夜遅くまで語り合ったものです。

人間は一生自分一人では食べていけません。本来、何か志を持っていないと、生きていくこともできないのだということが分かっていないのです。

論語には良いことが書いてあって、「吾十有五にして学に志す」、立志ですよね。志を立てるといふ、これを十五歳の時にやりなさいということなのです。そういうことを教えなければいけないと思います。

奈良県の子供たちや若い世代は、目的意識、自分の将来像を持って日々過ごしてほしいです。将来の「志」「日本の国を背負って立つ気概」「人のために尽くす心」を持ってほしいのです。

——最後に、有山理事長が考えておられる理想の教育を教えてください。

教育にはゴールがありません。私達を含めて教育に関係する者は、常に世界の動きに敏感であり続けなければ、国家・社会から求められる教育を行うことはできません。

教育は単に知識やテクニックだけを教えて詰め込むものではありません。何か起こった時に柔軟に変化に対応できる知識やテクニックをちゃんと自分のものとして吸収できる力、運動で言えば「基礎体力」をつけるというのが本当の理想的な教育ではないでしょうか。

また、頭だけでなく、身体で「日本」「日本人」を体得し、自然な世界観、宗教観を持ち、自分で考え行動できる人材をつくる教育を実現していきたいと思っています。

●プロフィール 有山 雄基 氏

■主な経歴

昭和10年（1935年）生まれ、76歳。

帝塚山中学校・高等学校卒業。昭和39年3月日本大学大学院医学研究科臨床医学内科系I卒業（医学博士）後、アメリカ合衆国ウィスコンシン大学・ブラウン大学研究員、日本大学医学部講師を経て医療法人有山会理事長に就任。奈良県医師会会長、奈良県健康づくり財団理事長、奈良県医療審議会会長、日本医師会理事・代議員会副議長等を歴任。

■座右の銘、好きな言葉

初心忘るべからず

■大事にしていること

日本人としての矜持を保つこと

■趣味

歴史小説を読むこと

■私のモットー

質実剛健

■好きな食べ物

寿司

■お勤めの本

鬼平犯科帳

■奈良県内で一番好きな場所（よく訪問される場所等）

奈良公園一帯（とくに春日野園地）

■所属企業・団体等の概要

学校法人帝塚山学園：平成23年（2011年）に創立70周年を迎えた幼稚園から大学院までを擁する総合学園。「国家・社会の負託に応える有為の人材を育成する」ことを理念に、日本をリードする総合学園を目指す。

○学園前キャンパス〔幼稚園から大学院まで〕

所在地：奈良市学園南3丁目1番3号

連絡先：TEL 0742-43-4433（法人本部）

○東生駒キャンパス〔大学・大学院〕

所在地：奈良市帝塚山7丁目1番1号

連絡先：TEL 0742-48-9122（大学）

（聞き手・文責：島田清彦）